

一般社団法人日本サンゴ礁学会
2023/24 年度 第 5 回理事会 議事録

【日 時】	8 月 22 日（木）18 時～21 時 30 分	
【場 所】	Zoom によるオンラインミーティング	
【参加者】	会長	: 中野義勝
	理事（6 名）：学会誌担当理事	: 波利井佐紀
	広報・社会連携担当理事	: 中村隆志
	学会戦略・国際連携担当理事	: 渡邊敦
	サンゴ礁保全・調査安全担当理事	: 菅浩伸
	庶務・会計担当理事	: 木村匡
	大会担当理事	: 山下洋
	監事（2 名）	: 野中正法・宮本育昌
	事務局長	: 水山克

【議 題】

●報告事項

- (1) 自然史学会連合総会の報告（木村理事）
資料に基づいて報告が行われ、沖縄に国立自然史博物館を設立する取り組みが進んでいることも紹介された。（木村理事）
- (2) 大会準備状況について（山下理事・水山事務局長）
7 月 28 日に山下と水山で宮崎大会会場の下見を行ったが、下見に関して簡素化する提案があった。
⇒大会中の事務業務を考慮した上で、会場下見については必要に応じてのみ行うことを、山下理事中心に検討することが承認された。
- (3) 事務局業務報告（木村理事・水山事務局長）
預金残高の確認、現金引き出し口座の変更、法人の設置申請、領収書の自動発行などが報告された。大会の登録申込みを HP 上で開始したが、大会参加を目的とした新規会員の年会費請求について、申込時期に応じて従来通り 2 ヶ年分を請求していることが報告された。
⇒2 年分の年会費請求は不親切であるため、大会参加を目的とした新規会員への参加費請求は 1 年分のみとし、運用については事務局を中心に継続審議することが承認された。
- (4) その他
 - ・学会が協力する「”和”の響き」プロジェクト（(株) クロステック）のクラウドファンディングが開始されたことを報告した。（中村理事）
参考 URL : <https://readyfor.jp/projects/wanohibiki-sanshin>
⇒学会の社会貢献として、広報委員会ページにリンクを掲載することが承認された。（中野会長）
 - ・サンゴ保全学術委員会の現状報告（菅理事）
宮崎大会にて自由集会の企画を検討中であること、白化に関するアクションは予定していないことが報告された。
 - ・調査安全委員会（菅理事）

安田会員（東大）から、ダイビング事故の危機管理に関するワークショップの紹介があり、理事会後に学会 ML で案内することが報告された。

参考 URL : <https://jaus.jp/?p=3756>

- ・保全教育普及奨励賞（中村理事）
理事会後に学会 ML で再通知を行うことが報告された。

●審議事項

(1) 学会戦略委員会（渡邊理事）

学会戦略委員会開催に向けての打ち合わせ内容が報告された。

大目標：10年後にサンゴ礁学会を良い形で残す

課題1：国際連携（学会戦略・国際連携）

台湾（中野会長）、ICRS（ライマー会員）

海外会員へのサービスを検討する

国際学会誘致（APCRS2030、ICRS を想定）実現の可能性を検討する

課題2：学会運営基盤（庶務）

寄付・協賛（庶務、広報）

⇒任意団体から一般社団法人になったことで受託業務を請け負う方向
を検討するのはどうか（野中監事）

課題3：選挙、代議員制度（庶務）

選挙制度改革（代議員定数の削減、総会型にしてはどうか）

課題4：和文冊子体のオンライン化（庶務、学会誌）

⇒学術誌を廃止すると、日本学術会議協力学術研究団体の要件を満た
せなくなるため慎重な議論が必要（波利井理事）。

参考 URL : <https://www.scj.go.jp/ja/group/dantai/index.html>

課題5：会員のメリット

学会誌における会員の優遇制度（大会では優遇制度あり）

学会として共有できる社会的課題を支援する

⇒実務を担うのはどこか（中村理事）。戦略委員会で計画し、理事会・委員会で
議論する（中野会長・渡邊理事）。

(2) 台湾珊瑚礁学会との連携について（中野会長・渡邊理事）

⇒台湾サンゴ礁学会との連携協定を結ぶことが提案され、日本サンゴ礁学会の
窓口および協定内容の吟味を渡邊理事中心に行うことが承認された。

(3) 大会要旨集の公開について（山下理事）

ルールを設けている学会とそうでない学会が混在することが判明した。

⇒著作権の帰属先について沖縄大会から示せるよう、大会期間中のアンケート
を含めて、山下理事を中心に継続審議することが承認された。

(4) 賞委員会（学会賞の選考結果）（木村理事）

選考委員会からの審議依頼について、審査委員・推薦者を除く理事・監事で検
討が行われた。審議内容については、賞の選考内容に係るため公表を差し控え
るものとする。

⇒学会賞の授賞理由として、選考結果の附帯意見についても併せて公表するこ
とを賞委員会に求めることが承認された。

⇒川口賞が「該当者なし」の選考結果である場合には、選考結果のみ公表することが確認された。

(5) 選挙管理委員会（木村理事）

⇒代議員の定員削減数案については継続審議を行い、次回理事会で提案することが承認された。

(6) 寄附金について（木村理事）

・寄附金に関する協議は、第4条第2項に基づき、申し入れの受理からプロセスが始まることが確認された（宮本監事・中野会長）。

・寄附者に対するインセンティブとして、一定額を上回る寄附金について感謝状を贈ることが提案された（野中監事）。

・寄附金に係る結果の報告書に記載する「その他必要な事項」については、別途定める必要があることが提案された（宮本監事）。

・寄附金に係る結果の報告書の交付方法として、ニュースレターではなく HP へ変更することが提案された（山下理事）。

・少額寄附に対する対応を、特別寄附の場合と区別する必要性が指摘された（宮本監事）。

⇒報告書は庶務が作成して理事会に諮ること、寄附金規定の修正版を ML で審議することが承認された。

(7) 理事会に係る出欠票・委任状について（木村理事・水山事務局長）

理事会の出欠票について、出席する場合は出欠票の提出を不要とすることが提案された。

⇒出席者に対する出欠票の提出は不要とすることが承認され、無断欠席はしないという道義的責任が確認された。

(8) その他

・学会 HP の分担について検討を始めたことが報告された（中村理事）。

・古宇利島エモンズの船体劣化による重油流出リスクの高まりに伴うサンゴ群集や海岸への影響が懸念されるとの情報共有された。保全策として、今後何かしらの行動を起こす必要があるかもしれない（菅理事）。

参考 URL：<https://isgs.kyushu-u.ac.jp/~seafloor/uss-emmons/>

・委員会 ML が作成されていない委員会に対して、学会で使用可能な ML 数の確認を事務局で行い、新規作成が必要な委員会に打診することが提案された（中野会長）。

・事業報告、次年度予算の検討時期を確認し、必要であれば理事会を開催することが提案された（中野会長）。

上記の決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事及び出席監事の全員がこれに記名押印する。

令和6年8月22日

一般社団法人日本サンゴ礁学会理事会

代表理事 中野義勝 ⑩

出席監事 野中正法 ⑩

同 宮本育昌 ⑩